

ほうこん

題字・清水英夫

第4期、5期の役員選挙 日程などを決定!

1月理事会報告

◇「GALAC」について

5月号の特集は「番組審議会」について。成り立ちから現在までを総括し、現状の問題点を探り、番組の改革案を提言する。また、地上波民放だけでなく、NHKや有料チャンネル、専門チャンネルなどの番組をリポートする。
2月号は、表紙の亀梨人気で、4000部の増刷となった。
◇選奨事業委員会
ギャラクシー賞下期の応募要項など準備中。
◇企画事業委員会
2月20日開催の「シンポジウム2008」は、講師も決定し、集客は、223名(1月30日現在)と順調に進んでおり、250名で締め切る。
◇細則改定案について
細則の一部改定をグラントデザイン小委員会で検討し、承認した。

主な改定項目は次の通り。

- ・第1条 得票数第1位から第10位↓「得票数の上位15名まで」
- ・第2条 第10位↓「15名」
- ・第3条 定款第14条に↓「細則第1条に」
- ・第4条 定款第14条に↓「細則第1条に」
- ・第5条(2) 選奨事業委員会に追加。「その実務は、テレビ部門委員会、ラジオ部門委員会、CM部門委員会、報道活動部門委員会の4委員会が担当する」
- ・第9条 「第8条」に変更
- ・第8条 項目を追加。「2 委員長の任期と委員の任期は合算せず、それぞれ別のものとして数える。3 2期連続して務めた委員長は、引き続き同じ委員会の委員を務めることはできない。4 委員長と委員の任期、所属できる委員会の制限について

ては、理事会が承認したときに限り、例外を認めるものとする」
・第8条 「第9条」に変更(なお、細則は「会員名簿」の51頁に記載してありますのでご参照ください)

◇理事選挙の日程について

NPO法人放送批評懇談会としての第4期、5期の役員選挙を細則に則り行う。2月25日に正会員宛に投票用紙を郵送し、3月25日(火)締め切り。直ちに選挙管理委員会により開票し、結果を4月上旬発行の会報「ほうこん」で公表する。その後、理事会準備会を開催する段取りを決めた。

◇グラントデザイン小委員会の中 間答申について

音委員長より報告。

これまでの6回の討議内容について項目ごとに説明があり、質疑応答を行なった項目は、「理念」「会員」「事業活動」「組織」「財務」。放懇の在り方を巡り、将来ビジョンについて活発な討議を展開したが、今後は優先的に実施できる具体案を、5年間をめどに策定する。最終答申は総会までに纏めて提案

することになった。

- ◇日韓中テレビ制作者フォーラム
第8回目を迎え、9月に福岡で開催されることが決まった。
- ◇テレビ制作者を囲む懇談会
有志による「小さな集い」の開催

を承認。3月15日、ゲストは石橋冠

- さん、「点と線」について懇談する(詳細は4ページ)。
- ◇維持会員社の入会
ビーエスフジの入会を承認した。
- ◇次回の理事会

2月29日(金)午後6時30分より

- 「出席」音好宏、田代勝彦、小田桐誠、入江たのし、岩本太郎、隈部紀生、坂本衛、篠原俊行、嶋田親一、滝野俊一、橋本隆、藤久ミネ

12月理事会記録

2007年12月21日理事会を開催。
◇「GALAC」について

4月号の特集は、「テレビCM」について。CMは文化か? 視聴者はCMをどう見ているか、アンケートを実施する。その他、コミュニティFMを取り上げる。なお、2月号(表紙・亀梨和也)は発行前からネ

ットを通じた人気で注文が殺到。事務局は発送業務に追われた。

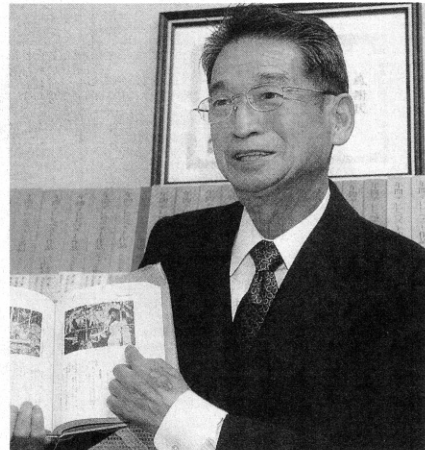
- ◇選奨事業委員会
CM部門は、「GALAC」と連動し、CMの現状についての課題を検討する。
- ◇企画事業委員会
2月20日実施の「シンポジウム2008」は、講師陣が決定次第、1月から集客を始める。

◇グラントデザイン小委員会

この6か月間討議した内容を中間答申として発表した。また、細則改定案も纏めた。今回は提案のみにとどめ、次回意見聴取し、論議する。

- 「出席」志賀信夫、音好宏、田代勝彦、小田桐誠、石井彰、岩本太郎、兼高聖雄、隈部紀生、坂本衛、篠原俊行、嶋田親一、橋本隆、藤久ミネ

「年間テレビベスト作品」が完結



「テレビ独自の熱気、可能性が失われた」と話す志賀さん—東京都中野区の自宅で

転機は八二年。タワシはねられ複雑骨折の重傷を負った。「年間テレビベスト作品」の刊行もあきらめかけたが、八三、八四の両年度を一冊にまとめるなして乗り切り、三十二年かけて三千冊に到達。ついに出版活動などが評価され、〇〇三年度芸術選奨文部科学大臣賞を受けた。文藝評論が主流の中にあつて放送評論での受賞は異例ともいえる。

優れた番組などを表彰するギャラクシー賞を主催する放送批評懇談会の理事長を七八年から務めてきたが、それも体力的な限界を感じ今年六月に退任する。

志賀さんはテレビ界の現状

30年前はおもしろかった

一九七七年度に源流社から刊行が始まった放送評論・志賀信夫さん（左）の「年間テレビベスト作品」の通巻千冊目（二〇〇七年度）が出版された。同書は、その年度に放送された優れたドキュメンタリーやドラマを厳選して収録。自費な番組であることを証明する放送界の「指標」となってきた感もあるが、三千冊の節目を迎えて完結の「と」に。この三十年を振り返り、志賀さんは「テレビはつまらなくなった」と述べ、視聴率至上主義の弊害に警鐘を鳴らしている。

放送&芸能

志賀さんは、四月から翌年三月末まで放送された番組の中から独自に選んだ五作品の白本に、電波新聞や信濃毎日新聞などに掲載してきた自身の放送時評を添え、毎年秋に「年間テレビベスト作品」を出してきた。三千冊目は出版の都合で遅れたが、次代を担うテレビマンの参考資料として、

放送評論家 志賀信夫さん

視聴率至上主義に警鐘

ぶど、やはりドキュメンタリーになると志賀さんは言う。志賀さんは一九二九年、福島県双葉郡浪江町に生まれ、早大文学部芸術科で演劇を専攻し、イギリス映画史を学んだ。大学院の修士を経て助手、講師となり映画史を教えていたが、日本テレビに開局翌年の五四年、番組モントーを頼まれたのがきっかけで番組批評を書き始めた。国内ではまだ確立していない分野だったが、毎日新聞や雑誌に書かれた批評が評判を呼び、六〇年、放送評論家として独立した。放送評論家として独立したと語っている。

また最近のスポーツ中継の増加に関しても、「スポーツそのもののおもしろさで見せている。他人のふんどしで相撲を取っている。なんの工夫もない」と、まゆをひそめ「テレビは（年間）テレビベスト作品の仕事がスタートする。三十年前が一番おもしろかった。映画でも舞台でもできない優れたドラマが出てくるなど、熱気や可能性があつたと語っている。

東京新聞（1月20日付朝刊）に掲載された記事

新入維持会員社

◇株式会社ビーエスフジ

〈代表者〉

北林由孝（代表取締役社長）

会議記録

21日	企画事業委員会
22日	選奨・ラジオ定例部会
28日	出版編集委員会
29日	選奨・テレビ月評会
30日	理事会
31日	グランドデザイン小委員会

シンポジウムについてのお知らせ

先月号GALAXYにシンポジウムのお知らせおよび募集告知を同封いたしました。プログラムの一部未定部分が確定しましたので、同封チラシにてお知らせします。

なお、このシンポジウムは1月15日に外部に発表し、維持会員、一般からの参加者募集を開始しましたが、申込者殺到により、すでに満席となりました。ご了承ください。

企画事業委員会

お知らせ

テレビ「制作・表現名人」を囲む “小さな集い”のご案内

テレビで「今」を表現している特上の「名人」を囲んで、そのウラ・オモテの苦勞、その人の人生を膝を交えてたっぷり、こっそり聞いてしまおうという、突っ込み好きの表現大好きな小さな集い。

お気軽においでください。

人—監督・石橋冠（元日本テレビ）
 作品—「点と線」（テレビ朝日）
 時—2008年3月15日（土）午後6時半～
 場所—東京ウイメンズプラザ2F
 03-5467-1711
 （東京メトロ「表参道駅」B2出口。国連大学に向かって右側の小道入り右）
 参加費—1,000円
 出欠—石井清司事務所
 TEL・090-9333-1633
 FAX・03-3594-1633
 世話人—放送批評懇談会有志

ギャラクシー賞 マイベストTV賞 2008年1月度 投票について

ギャラクシー賞マイベストTV賞2008年1月度作品の投票を開始します。正会員の皆さまは、添付した〈正会員専用 投票用紙〉でマイベストTV賞の投票にご参加ください。

マイベストTV賞 携帯サイト、オープンしました！ 投票もこちらから！

<http://www.houkon.jp/m>



ギャラクシー賞マイベストTV賞 月間ノミネート番組発表！

- 11月度
- ・開局50周年記念ドラマスペシャル「点と線」テレビ朝日
 - ・SP フジテレビ
 - ・ガリレオ フジテレビ